

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和07年12月05日

計画の名称	パークスクエア・バス通り沿線地区の魅力的で賑わいと活気があふれる地域環境の形成計画													
計画の期間	平成 3 1 年度 ~ 令和 0 5 年度 (5年間)											重点配分対象の該当		
交付対象	鳥取県													
計画の目標	当地区は、倉吉市の中心市街地に位置し、倉吉未来中心、倉吉市立図書館、生涯学習センター、二十世紀梨記念館などの文化施設が集積する地区であるが、県中部圏域の中心地区として、さらなる魅力と賑わいの創出が求められている。 このため、新たな交流の核となる施設として、現在計画が進行している鳥取県立美術館に併設して、各種交流イベント等に活用できるホールやギャラリー等を整備することにより、倉吉市を中心とした県中部 1 市 4 町の地域住民の相互交流を促進し、魅力的で賑わいと活気があふれる地域環境の形成を図る。													
全体事業費（百万円）	合計（ A + B + C + D ）		8,122	A	8,122	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / （ A + B + C + D ）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H29		R5
1	賑わい交流施設を整備することにより、中心市街地の社会動態の改善を図る。 倉吉市中心市街地の社会増減を集計する。			
		-9人/年	人/年	0人/年
2	賑わい交流施設を整備することにより、中心市街地の交流人口を増やし、賑わいを創出する。 倉吉市中心市街地に立地し、賑わい交流施設建設予定地に隣接する倉吉パークスクエアのうち、開館後の連携、賑わいの増加が特に期待される倉吉未来中心の施設利用者数を集計する。			
		190860人/年	人/年	200000人/年

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-

A 基幹事業																			
基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別 1	種別 2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名 / 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	鳥取県	直接	鳥取県	-	-	パークスクエア・バス通り沿線地区暮らし・にぎわい再生事業	賑わい交流施設	倉吉市						8,122	1.49	-
											小計						8,122		
											合計						8,122		

事後評価	
事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
本整備運営についてはPFIを採用しており、PFIのコンソ企業を中心に整備を実施。	令和7年12月
	公表の方法
	鳥取県ホームページ
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	開館が令和7年3月であり、令和5年時点（最終事業評価時期）では効果発現は確認できていない。 また、指標としている利用者数の増、社会増減の増については、長期的な視点が必要になることから今後も経過を継続して確認していく。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	美術館が開館した令和7年3月以降、所在のある倉吉市においての市外入込者数（観光客）が昨年比較で市内全体が125%、中心市街地で134%と、増加した効果が見られた。
特記事項（今後の方針等）	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	社会増減		
	最 終 目標値	0人/年	当該施設ができた（開館した）ことによる効果での人口増減への効果波及は令和7年3月の開館後、数年経過し、現れてくると思慮。
	最 終 実績値	-18人/年	
2	利用者数		
	最 終 目標値	200000人/年	計画段階では予期できなかったコロナがあり、令和3年度には50,000人にまで落ち込んだ利用者数が少しずつ戻ってきている状況。
	最 終 実績値	164580人/年	